

## 酒田市地域公共交通計画について（概要）

### 1 計画の目的や位置づけ

- 本計画は、平成28年7月に策定した酒田市地域公共交通網形成計画の次期計画として策定するもので、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 第5条第1項に規定する、地域公共交通計画として策定します。
- 地域の多様な輸送資源を視野に入れ、本市の規模、地理的特性、生活実態に見合う公共交通網の構築を目指し、効率的で利便性の高い、持続可能な公共交通の形成を図ることを目的とするものです。

### 2 計画策定の方向性

- 令和2年の法改正（11月施行）に対応するものとして策定する
- 基本理念や基本方針などの主要要素は、現計画を踏襲する
- 目標、指標、施策が一連のものとなるよう再構築し、これまでに実施した施策などの記載についても工夫する

### 3 現計画からの主な変更や改善点

- 章立てや記載内容を見やすくし、わかりやすいよう改善する
- 法改正に対応し、多様な輸送資源（スクールバス、福祉輸送、シャトルバスなど）に触れて記載する
- 法改正に対応し、原則的な設定が求められている標準指標に対応  
そのうえで、独自の指標も設定し、長期的な視点を要するものは大規模アンケートで把握する
- 交通体系の改編を踏まえ、幹線と支線の位置づけや役割についても記載する

### 4 計画期間・基本理念

※ 基本理念は前計画を引き継ぐ

計画期間：R3年度～R7年度 [5年間]

基本理念：『人と地域の交流を支える公共交通』

～市民とともに、持続可能な公共交通網を形成し、コンパクト+ネットワークを実現～

### 5 章立て

※ 前計画を引き継ぎつつ、わかりやすく工夫

- 第1章：計画の概要（目的、位置づけ、対象範囲、区域、計画期間）
- 第2章：公共交通を取り巻く現状と課題
- 第3章：基本理念・方針・目標
- 第4章：目標を達成するための施策・事業
- 第5章：重点的な取り組み
- 第6章：プロジェクト・施策の進め方
- 第7章：参考資料（前計画期間での取り組み結果、公共交通運行状況）

### 6 次期計画の方針・目標・指標

※ 前計画を引き継ぎつつ、わかりやすい工夫と法改正への対応

#### 【基本方針1】 将来のまちの姿を見据えた持続可能な公共交通

- 基本目標1：効率的で持続可能な交通網を整備します
- 長期目標①：都市機能を生かすコンパクトなまちづくりを支援します

数値指標 1-A：バス路線の1キロあたり利用者数  
数値指標 1-B：公共交通の収支率  
数値指標 1-C：利用者1人あたり公費負担額  
アンケート指標①：公共交通の利用率

#### 【基本方針2】 地域の交流と発展を促す公共交通

- 基本目標2：市民生活を支える交通サービス向上を目指します
- 長期目標②：それぞれの交通が連携した交通体系を構築します

数値指標 2：デマンドタクシー利用者数  
アンケート指標②：接続性に関する不満度

#### 【基本方針3】 市民協働で取り組み、利用者目線で考える公共交通

- 基本目標3：産学官民が連携し、公共交通の利用を促進します
- 長期目標③：わかりやすく、使いやすい交通環境を目指します

数値指標 3：利用促進の取り組み事例数  
アンケート指標③：情報提供に関する不満度

### 7 指標と目標値

※ 市民アンケート結果や改編後のシミュレートにより設定

指標	調査頻度	現況	目標値	備考
数値指標 1-A：バス路線の1キロあたり利用者数	毎年	0.44 人/km	0.57 人/km	国による標準指標
数値指標 1-B：公共交通の収支率	毎年	22.4%	32.0%	国による標準指標
数値指標 1-C：利用者1人あたり公費負担額	毎年	454 円	350 円	国による標準指標
アンケート指標①：公共交通の利用率	最終年度	13.8%	18.0%	アンケート調査
数値指標 2：デマンドタクシー利用者数	毎年	6,130 人	17,000 人	国による標準指標
アンケート指標②：接続性に関する不満度	最終年度	34.2%	30.0%	アンケート調査
数値指標 3：利用促進のための取り組み事例数	毎年	2	12	累積値で評価
アンケート指標③：情報提供に関する不満度	最終年度	19.7%	15.0%	アンケート調査

### 8 重点的な取り組み

- 公共交通体系の改編**  
→ 市の全体を見渡し、不満度が高まることなく、持続可能で利便性の高い交通体系を実現する  
酒田駅前再開発事業に合わせ、駅前周辺のバス停を集約する
- 潜在的需要者の取り込み**  
→ 交通体系も変わり、バス路線やダイヤも変わるため、利用者へきちんと周知することが重要となる  
そのうえで、潜在的需要者層へ働きかけ、公共交通を選択的に利用できる方を増やしていくことが大切
- 利用環境の改善**  
→ 中長期的には、運賃のキャッシュレス化などを視野に、利用環境の向上に取り組んで行く